

東京大学・企業訪問感想文

私は、将来就きたい仕事や行きたい大学が決まっているわけではなかった。だが、今回の東京訪問によって、自分の将来について考える事が出来た。どのプログラムでも多くの刺激を得る事が出来、有意義な時間となったが、特に印象に残ったのが企業訪問と東京大学見学であった。

企業訪問では、文化放送を訪問させていただいた。文化放送は関東広域を対象とし、キー局となっているラジオ局である。そのようなラジオ放送において重要な役割を果たしている局に訪問させていただけるということは滅多にない機会である。

今回の訪問では、ワールドカップやロンドンオリンピックの実況を行ったほか、レコメンやニュースワイドSAKIDORIといった番組を担当するなど、幅広いジャンルの番組を担当されている砂山圭太郎アナウンサーに案内していただき、スタジオや公開収録の様子を見学させていただいた。訪問してすぐに、文化放送前で行われる公開収録を見学した。公開収録は、文化放送の建物の中にあるスタジオと外を繋いで生放送で行われる。外にはレポーターを含めた3人がおり、そこに一般の方が飛び入りで参加して中継を行っているようだ。この日は、タブレット純さんがレポーターで、初期の頃のライブに来ていたというご家族が参加されていた。本番前の打ち合わせをしている時に行ったところ、私たちの班も少し参加させていただけることになった。予定していたカンペに加えて、私たちとの対話用のカンペをその場で即座に作り中継となった。また、中継の最中にも会話の流れを見ながらカンペを作り、スムーズに中継が進むようにしていた。二高が仙台の高校ということでその場で七夕についての質問を入れており、会話の流れを読むほか相手に関する知識も必要となるのだということ強く感じた。

続いて実際に使われているスタジオを見せていただき、そこでアナウンサーに関して様々な質問をさせていただいた。ラジオはほぼ24時間放送を行っており、平日は9割・休日は7割の番組が生放送だそうだ。そのため、アナウンサーという職業では日によって7・8時間続けて番組があることもあり、意外に体力が必要となる職業だと感じた。

スタジオはAD・ミキサー・ディレクターがいる機械操作側と実際にはなす側に分かれ、トークボタンという実際の放送には音声を入れずにやりとりができるボタンなどを使いながら分単位で番組を進行しているようだ。スタジオの中には、マイクが6個設置されており、各マイクにマイクのon/offが出来るスイッチが付いている。このスイッチを使うことで出演者が放送に乗せたくないと思う音のみをマイクが拾わないようにできるそうだ。他にも、時計をアナログとデジタルの二種類を用意して単純な時間の確認にはデジタル、秒数合わせにはアナログというように使い分けているのだという。また、外の世界で起こっている大まかな出来事を知るためにテレビが設置されていたり、外の温度や湿度を表示するパネルや地震観測計があったりと情報をスムーズに伝えるための多くの工夫がなされていた。普段何気なく聞いているラジオにはこんなにも多くの工夫がなされているのだと知り、驚きを感じた。

砂山アナウンサーへの質問では、アナウンサーの仕事内容についてや、ラジオならではの難しさ・技術面での工夫など多くのことを教えていただいた。その中で最も印象に残っているのは、砂山アナウンサーのアナウンサーとしての心構えについてのお話だ。砂山アナウ

ンサーは最も大切なことについて、「色々な人が働いている中で矢面に立つ人間は少ない。アナウンサーは局を背負うことが多いため、自分が話すことで局がどう思われるかを考えなければならない。様々な考え方があっても偏らないよう客観的に一步引いた自分の立場を持つことが大切になる。」とおっしゃっていた。情報を伝えるという仕事であり、最も前に立つからこそ必要となってくる心構えなのだと感じた。人の身近にある情報源だからこそ責任感を持って伝えなければならないという覚悟を感じた。また、高校生のうちにやっておくべきこととしては、「何がどうなるかは全く分からず、思わぬところに才能があったりもする。興味のないことによって世界が広がることは多い。だから、何でもやってみよう！」とおっしゃっていた。実際に、砂山アナウンサーも入社当時はスポーツ担当、その後はバラエティーを担当し、現在はニュースも担当し始めたそうだ。

自分を振り返ってみると、自分の好きな事や得意な事に偏っていると思った。今後は、自分の可能性を広げるためにも、もっともっと色々なことに挑戦していきたいと思った。特に、苦手だと思って避けてきたことが多いので、自分の思わぬ才能を見つけられたらいいなという気持ちでもう一度向き合い、実りの多い高校生活になるように努力していきたいと思った。

東京大学見学では、一日を通じて東大の施設の見学を行ったり個別相談会で東大生のお話しを実際にきいたりすることで、東大に持っているイメージを大きく変えることが出来た。今まで東大には勉強ばかりである・レベルが違いすぎて自分には縁のない世界であるといったイメージを持っていた。だが、今回の東大見学で、もちろんレベルは高いがその分研究環境も集まっている人々のレベルが高いのだと感じた。そして、自分で必死に努力すれば手に届くかもしれない大学なのだとは今までよりも身近に東大を感じる事が出来た。

安田講堂や三四郎池といった様々な施設を見学したなかで、最も印象に残っているのが図書館である。東大の図書館なのだから本は多いのだろうなと思っていたが、想像していた以上の蔵書があり本当に驚いた。専門的な本は勿論、新聞の縮尺版や新書が壁一面に並んでいた。自習用の机がフロア一面に広がっていたり、パソコン専用のスペースが設けられていたり学習環境がとても整っていると感じ、とても感動した。また、東大生の方々と実際に話をさせていただくことでどのようにして勉強すればいいのかということも教えていただくことが出来た。東大に受かるような方々なので、特別人よりも勉強していたりするのだろうなと思っていたが、着実に勉強することが大切なのだと痛感した。意外にも、高校時代はしっかりと部活をしていて東大に受かっている方が多いことに驚き、やはり一つ一つの事を確実にこなしていくことが必要なのだと感じた。東大生の中の一人がおっしゃっていた「東大は努力が報われる大学だよ。初めから諦めずに候補に入れながらがんばってみても良いと思うよ。」という言葉がとても印象に残っていて、不可能な大学ではないのだと感じて少し嬉しく思った。

午後に受けた刑法・刑事訴訟法についての模擬授業もとても面白かった。自分は法律に興味があるという訳では特になかったが、模擬授業はとても面白く法学部に興味が湧いた。高度な授業を行っているのだろうとは思っていたが、実際に受けてみると想像以上に面白かった。それと同時に、大学の授業を実際に体験することができ、自分の興味がある分野について深く学ぶことが出来、思う存分に研究に打ち込めるのはとても楽しいだろうなと大学生活に大きな期待を持った。今回の東京大学見学で、東大自体に対する興味が高まったのは勿論大学生活に関しても深く考えようと思うようになった。

今回の東京大学・企業訪問は、自分について、そして自分の将来について考える本当に良い機会になったと思う。感想を書いた2つのプログラムはもちろんだがDF夏季プログラムやグループセッション、OB・OG座談会といったプログラムでも、普通では話を聞くことの出来ないような多くの方々からお話を伺うことが出来、大変貴重な経験となった。

この2日間様々な人とお話しさせていただいたが、どの人も共通でおっしゃっていたことがあったように思えた。それは、「高校という時代は今しかないものだ。今でしか経験できないこともたくさんある。高校生のうちに是非様々な事に挑戦して、色々なことを経験して人間として成長してもらいたい。」ということである。自分のことを考えてみると、1つのことのために何かで手を抜いていたり得意な事のみ力を入れて他の事はやらなかったりと挑戦することをせず、成長のない人間になっていたように思う。今後は、東京大学・企業訪問で得た経験をもとに様々な事に挑戦していきたいと思う。そして、自分がやりたいことは何か・自分は将来何をしたいのかをじっくりと考えながら高校生活を送っていこうと思った。

最後に、大変貴重な経験の場を作ってくださった先生方、お忙しい中対応していただいた文化放送の皆さま・デュレクトフォースの方々・fairwindの皆さまに感謝の気持ちを述べたいと思う。本当にありがとうございました。